

## 第5回 日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場建設検討委員会 議事要旨

日時：令和 6 年 7 月 1 日（月） 14:30～16:00

場所：西郷ニューホープセンター（美郷町）

### ■ 出席者

- (1) 委員
- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 土手 裕  | (宮崎大学工学部教授)          |
| 大榮 薫  | (宮崎大学工学部准教授)         |
| 山田 大志 | (NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク) |
| 後藤 充  | (美郷町区長会長)            |
| 道口 光一 | (美郷町花水流地区区長)         |
| 小野 圭一 | (美郷町花水流地区)           |
| 松本 恵喜 | (美郷町花水流地区)           |
| 小野 和久 | (美郷町小川地区)            |
- (2) 事務局
- |       |                   |
|-------|-------------------|
| 奥原 孝雄 | (日向市 環境政策課 課長補佐)  |
| 小林 英彦 | (門川町 環境水道課 課長)    |
| 黒田 和幸 | (美郷町 町民生活課 課長)    |
| 中田 芳樹 | (美郷町 町民生活課 主幹)    |
| 中原 雅則 | (諸塚村 住民福祉課 課長)    |
| 椎葉 洋介 | (椎葉村 税務住民課 主幹)    |
| 黒木 真  | (広域連合 事務局長)       |
| 吉玉 賢司 | (広域連合 業務第 1 係長)   |
| 日高 昭洋 | (広域連合 業務第 2 係長)   |
| 黒木 俊介 | (広域連合 業務第 1 主任技師) |
| 近藤 和房 | (広域連合 業務第 1 主任主事) |
- (3) コンサルタント
- |        |               |
|--------|---------------|
| 平川 猛   | (株式会社建設技術研究所) |
| 長谷川 清史 | (株式会社建設技術研究所) |
| 神谷 亘   | (株式会社建設技術研究所) |

(以上、敬称略)

■ 内容

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ（委員長）
- 4 協 議（議事進行：委員長）
  - （1）前回委員会の確認
  - （2）地質調査計画について
  - （3）オープン型最終処分場と被覆型最終処分場の比較検討について
  - （4）今後のスケジュールについて
  - （5）その他
- 5 閉会

■ 配付資料

- 資料 5-1：第 4 回建設検討委員会議事要旨
- 資料 5-2：地質調査計画
- 資料 5-3：オープン型最終処分場と被覆型最終処分場の比較検討
- 資料 5-4：今後のスケジュールについて

## 1. 開会

○配布資料の確認

## 2. 委嘱状交付

## 3. あいさつ

○土手委員（委員長）より挨拶

## 4. 協議事項

### (1) 前回委員会の確認

○事務局より【資料 5-1】に基づき説明。

委員 : 意見なし

### (2) 地質調査計画について

○事務局より【資料 5-2】に基づき説明。

委員 : 図 2 は学術的な宮崎の土壌分布図か。

事務局 : 宮崎県の『土地分類基本調査表層地質図』を参考にしている。

委員 : 地質調査を実施する土地の地権者の承諾は取れているのか。また、ボーリング調査で想定外の地下水が出た場合はどうするのか。工事の際、基礎を深く掘って処理出来るようにするのか。

事務局 : ボーリング調査について、地形を考慮すると水が吹き上がることはない想定している。ただし、処分場を造るときに地下水位が影響する場合は水の処理が必要になるため、地下水の状況を確認する必要がある。基本同意が調査を行う際の同意ということで、地権者に対しても説明を行い同意を得ている。

委員 : 資料 2 の図 4 と図 5 は同じものか。配置図は被覆型最終処分場とオープン型最終処分場のどちらを想定した図となっているのか。

事務局 : 図 4 と図 5 はサイズは異なるが、同じ図である。配置図は被覆型を想定した図である。

委員 : 被覆型とすることを決定していないが、配置図を被覆型とした理由はあるのか。

事務局 : 配置図では、仮配置として被覆型とした。現段階で、オープン型と被覆型は確定していないが、どちらでも問題ないように調査を実施する。オープン型と被覆型が確定したあとの第 2 段階での調査計画において、調査計画の位置の見直しを考えている。

- 委員 : 5Pの3の課題の②『阿蘇火砕流体積物の岩盤性状によって透水性・強度が異なる。』と記載があるが、7Pのマップの地質強度はどうなっているのか。
- 事務局 : 地質平面図ではまだそこまでの区分をしていない。硬さと割れ目の多さ、透水性の異なる細かい部分や位置関係については、今後調査で把握する。

### (3) オープン型最終処分場と被覆型最終処分場の比較検討について

○事務局より【資料5-3】に基づき説明。

- 委員 : オープン型、被覆型について、地元としても公害関係を考えると被覆型のほうが望ましいと考えている。屋根撤去費が1.2億円とあるが、被覆型にするのであれば、屋根残して有効に利用出来るように、検討したほうがよい。
- 事務局 : 被覆型に関しては、跡地利用として被覆施設残して利用することもある。屋根の耐久年数になれば、屋内は使えるとは思う。今後、内部環境的にも問題がないかどうか踏まえて検討を進める。
- 委員 : オープン型は粉じんが風で舞っているような気がしたので、被覆型のほうがよいと考えている。被覆型の建設費は高いと思っていたが、低くなった。この建設費は今後資材高騰などを考慮した価格か。また、被覆型の浸出水処理能力の25 m<sup>3</sup>は最大値を採用しているとしているが、問題ないか。屋根の撤去費、ガスによる腐敗とサビによって割れる可能性などの問題点から撤去すると思われるが、撤去したあとは締固めて整地するのか。
- 事務局 : 令和6年5月時点であるため、今後の物価上昇は見込んでいない。浸出水処理能力は今後の検討によっては変わるところではあるが、現段階では最大値により工事費を算出している。一般廃棄物最終処分場において腐食性のガスの発生量は少ないと考えているが、被覆施設は耐久性についてもすぐれている材料で検討していく。
- 委員 : 住民の方も生活環境を一番心配していると思うので住民の方にとっても被覆型が望ましいと考えている。被覆型の跡地利用事例を住民に示してほしい。
- 委員 : 浸出水処理施設の建設費について、被覆型の建設費ほうが安くなるのか。
- 事務局 : 被覆型の処理能力がオープン型と比較して低いため、その分建設費と維持管理費が安くなる。
- 委員 : 被覆型は地盤の強度がないと建設工事費が高騰することがあるとの記載があるが、ボーリング調査により確認していくという理解でよいか。
- 事務局 : 被覆型では、柔らかい地層があれば固い地盤まで基礎杭を打つ必要がある。調査結果によっては、杭長が長くなり工事費が高くなる。

- 委員 : 今後基礎工に必要な費用なども示すこと。
- 委員 : オープン型と被覆型の決定はどのようなプロセスで決定するのか。
- 事務局 : 建設検討委員会の意見を踏まえて、地元の説明を行う。そのうえで、構成市町村で構成される会議で決定し、基本計画に示す。基本計画は今年度中に作成し、連合議会で報告する。
- 委員 : 維持管理期間について懸念がある。被覆型最終処分場の廃止事例もでてきていると考えられるので、閉鎖・廃止までの期間を調査し、それを運転費に反映して次回検討委員会で示すこと。

#### (4) 今後のスケジュールについて

○事務局より【資料 5-4】に基づき説明。

- 委員 : 意見なし

#### (5) その他について

○事務局より説明。

- 事務局 : 建設検討委員会はすべて公開で行っている。そのため、記者会見等の発表は実施しない。会議録を作成し、委員の皆様を確認いただいた後、資料と併せて公開する。
- 委員 : 連合長が変わったとのことだが、連合長の意見などを聞く機会の調整または報告などをお願いしたい。
- 事務局 : 現場説明会の実施することを考えているため、連合長の意見等を確認して報告する。

## 5. 閉 会

〔了〕